

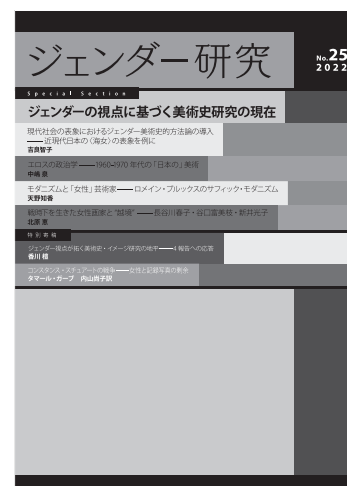
6.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series

1) 『ジェンダー研究』

『ジェンダー研究』は本研究所が編集・発行している査読付きの国際学術雑誌で、特集論文、特別寄稿論文、投稿論文、書評から構成される。巻頭に掲載される特集論文はその年に特に注目されたジェンダー関連のテーマについて世界第1級のジェンダー学研究者が執筆し、外部評価を得た論文で組まれており、学術研究としての寄与も大きい。特別寄稿論文は、編集部によるオリジナル企画として、学際的・国際的なジェンダー研究の成果を世に問う論文を掲載している。投稿論文は、国内外から投稿された日本語もしくは英語の論文で、国際的に活躍する研究者による外部審査を経て採用された質の高い論文である。書評も近年ジェンダー関連分野で注目された著書をジェンダー研究および隣接分野の研究者が評しており、最新のジェンダー研究の動向を示すものである。



『ジェンダー研究』25号（2022年7月刊行）概要

特集「ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在」

『ジェンダー研究』25号は、「ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在」を特集した。本特集は、日本でジェンダーの視点から美術史研究を牽引している4名の研究者による研究論文4本に加え、特別寄稿としてこの特集の元となった同名のIGSシンポジウムのコメンテーターであった香川檀氏のコメント原稿と、美術史学研究をリードするロンドン大学のタマル・ガーブ教授の翻訳論文の2本で構成されており、ジェンダー視点に基づいた美術史研究の現在地が示された。

研究論文1本目の吉良論文は、「現代社会の表象におけるジェンダー美術史的方法論の導入——近現代日本の〈海女〉の表象を例に」と題され、あえて美術作品ではなく身近にある海女についての表象を対象とし、その表象のあり方にジェンダー美術史的方法論を応用し、歴史的な変遷とあわせて読み解いた論考である。現代の海女のイメージは社会が欲望するエロスとエキゾティシズムを兼ね備えた他者としての想像／創造上の海女であることが検証されている。2本目の中嶋論文は、「エロスの政治学——1960-70年代の『日本の』美術」と題され、60-70年代に世界各地で人間解放の思想として流行した「エロス」の日本および日本出身のアーティストの表現を比較考察し、具体的な作品やパフォーマンスを通して男女で「エロス」に関する解釈や表現が異なっていたことを説得的に考察した論考である。3本目の天野論文は、「モダニズムと『女性』芸術家——ロメイン・ブルックスのサフィック・モダニズム」と題され、20世紀前半にフランスで活躍したアメリカ人女性画家であるロメイン・ブルックスの自画像を分析する。既存の表象体系を慎重に組み替えながら、彼女が試みたサフィック・モダニズムの可視化について論じられている。4本目の北原論文は、「戦時下を生きた女性画家と“越境”——長谷川春子・谷口富美枝・新井光子」と題し、戦時下で活躍した女性画家3人を取り上げている。3人はそれぞれ活動拠点も戦争に対する考え方も異なっていたが、女であると同時に画家であることへの矛盾を抱えていた点で共通していた。彼女たちの活動や視覚表象を分析し、ジェンダーの視点から問い直した論考である。

特別寄稿の2本の論考のうち香川論文は、本特集の元となったIGSシンポジウム時の4人の報告に

対する応答コメントである。各論文の補足にもなっており、既存の美術史学のナラティブを覆す問題提起と、この方法論に立脚することでどのような地平が拓かれるのかという展望が語られている。タマール論文は、2019 年 5 月にお茶の水女子大学で開催された美術史学会主催の講演会時の報告原稿の全訳である。南アフリカ出身で、現在ロンドン大学 UCL の美術史学の教授であるタマール・ガープ氏はこの分野を代表する研究者である。南ア出身の女性カメラマン、コンスタンス・スチュアートによる第二次世界大戦後のフランスで撮られた対独協力者の女性の写真を精緻に考察し、鋭い表象分析がなされている。今号の特集の特徴は、すべての論文で図版や写真がキャプションとともに挿入されている点である。実際の図版や写真をじっくりと眺めながら、各論考で展開されるスリリングなフェミニズム的読解やジェンダー視点による解釈に触れることができる素晴らしい特集になったと自負している。

続く一般投稿論文のセクションでは、5 本を掲載することができた。いずれも厳正な審査を経て掲載可となったもので、後掲の目次から明らかなように、セクシュアリティ、表象、法、クィア的読解といった幅広い分野からの掲載となった。

また書評は、小ヶ谷千穂、村上彩佳、G. G. Rowley、Setsu Shigematsu、金美恵、李素軒、古久保さくら、関根里奈子、鈴木楓太、福永玄弥、伊田久美子、Yuko Onozaka、飯野由里子、菅野摂子、梁・永山聡子、河野真太郎、片山亜紀の諸氏によって評された 17 本の書評を収録した。いずれも人文科学・社会科学の幅広いフェミニズム、ジェンダー研究の先端をいく文献を厳選し、寄稿いただいた。

今号も多彩な執筆陣によって最先端のジェンダー研究の知見が提供される 1 冊となった。

■『ジェンダー研究』25 号（2022 年 7 月刊行）編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
脇田 彩 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
北原 恵 大阪大学文学研究科
板井 広明 専修大学経済学部
Jan Bardsley ノースカロライナ大学
Karen Ann Shire デュースブルグ・エッセン大学

編集事務局

平野 恵子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022 年 3 月まで）
仙波 由加里 お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022 年 3 月まで）
嶽本 新奈 お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022 年 5 月から）
黒岩 漠 お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022 年 5 月から）
和田 容子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

『ジェンダー研究』25号（2022年7月刊行）目次

編集のことば.....	申琪榮
巻頭言.....	天野知香
特集：ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在	
研究論文	
現代社会の表象におけるジェンダー美術史的方法論の導入——近現代日本の〈海女〉の表象を例に.....	吉良智子
エロスの政治学——1960-70年代の「日本の」美術.....	中嶋泉
モダニズムと「女性」芸術家——ロメイン・ブルックスのサフィック・モダニズム.....	天野知香
戦時下を生きた女性画家と“越境”——長谷川春子・谷口富美枝・新井光子.....	北原恵
特別寄稿	
ジェンダー視点が拓く美術史・イメージ研究の地平——4 報告への応答.....	香川檀
コンスタンス・スチュアートの戦争——女性と記録写真の剰余 ／Constance Stuart's War: Women and Documentary's Excess.....	タマル・ガーブ（内山尚子訳）
投稿論文	
公共政策における「交差性」概念の有効性と課題——理論的枠組みと批判的実践という観点から.....	高橋麻美
アニメーション的な誤配としての多重見当識 ——非対人性愛的な「二次元」へのセクシュアリティに関する理論的考察.....	松浦優
「法のまえ」に現れる身体——コーネルとバトラーの基本概念の批判的統合をもとに.....	長野慎一
語ることに語り出すこと——性暴力とトラウマケアをめぐるアイデンティティに関する考察.....	井上瞳
中国本土におけるインディペンデント・クィア映画史の再構築——新しい分類法を用いて.....	于寧
書評	
シンシア・エンロー著、望戸愛果訳、人文書院 『バナナ・ピーチ・軍事基地——国際政治をジェンダーで読み解く』.....	小ヶ谷千穂
Mikiko Eto 著, Routledge <i>Women and Political Inequality in Japan: Gender-Imbalanced Democracy</i>	村上彩佳
Jan Bardsley 著, University of California Press <i>Maiko Masquerade: Crafting Geisha Girlhood in Japan</i>	G.G. Rowley
Chelsea Szendi Schieder 著, Duke University Press <i>Coed Revolution: The Female Student in the Japanese New Left</i>	Setsu Shigematsu
謝花直美著、有志舎 『戦後沖縄と復興の「異音」——米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望』.....	金美恵
小島庸平著、中央公論新社 『サラ金の歴史——消費者金融と日本社会』.....	李素軒
元橋利恵著、晃洋書房 『母性の抑圧と抵抗——ケアの倫理を通して考える戦略的母性主義』.....	古久保さくら
田中東子編、北樹出版 『ガールズ・メディア・スタディーズ』.....	関根里奈子
井谷聡子著、関西大学出版部 『〈体育会系女子〉のポリティクス——身体・ジェンダー・セクシュアリティ』.....	鈴木楓太
日下渉／伊賀司／青山薫／田村慶子編、明石書店 『東南アジアと「LGBT」の政治——性的少数者をめぐって何が争われているのか』.....	福永玄弥
鄭喜鎮編 権金炫／鄭喜鎮／欄碧吟／ルイン著、申琪榮監修・金李イスル訳、大月書店 『#MeTooの政治学——コリア・フェミニズムの最前線』.....	伊田久美子
Masako Ishii-Kuntz, Guro Korsnes Kristensen and Priscilla Ringrose 編, Routledge <i>Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan and Norway: Same but Different?</i>	Yuko Onozaka
パトリシア・ヒル・コリンズ／スルマ・ビルゲ著、小原理乃訳／下地ローレンス吉孝監訳、人文書院 『インターセクショナリティ』.....	飯野由里子
竹家一美著、晃洋書房 『日本の男性不妊——当事者夫婦の語りから』.....	菅野摂子
キム・ジヘ著、尹怡景訳、大月書店 『差別はたいてい悪意のない人がする——見えない排除に気づくための10章』.....	梁・永山聡子
斎藤美奈子著、河出書房新社 『挑発する少女小説』.....	河野真太郎
小川公代著、講談社 『ケアの倫理とエンパワメント』.....	片山亜紀
編集後記	
編集方針・投稿規定	

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

ジェンダー研究所では、開催したシンポジウムやセミナーでの講演・報告内容の記録や、特別招聘教授プロジェクトの成果をまとめた報告書として、IGS Project Series を刊行している。2022 年度は、『「東アジアにおけるジェンダーと政治」Booklet Series 1 (IGS Project Series 20) 台湾におけるジェンダークオータ』の増刷をした。



IGS Project Series 20

「東アジアにおけるジェンダーと政治」Booklet Series 1

台湾におけるジェンダークオータ